

中之条町における幼小の架け橋プログラムの作成と1年生生活科の実践

— 架け橋期の学びの連続性を意識して —

中之条町立中之条小学校 小林祥太

I 主題（テーマ）

幼小の架け橋期における学びの連続性を意識した取組

II 研究の背景と目的

本研究は、初めて1年生の担任となったことをきっかけに、児童の発達段階や幼児期からの学びを十分に理解する必要性を感じたことから始まった。そこで、町の研究体制のもと架け橋プログラムの作成と授業実践を並行して行い、架け橋期における学びと生活の連続性を明らかにすることを目的とした。

III 実践の計画と方法

中之条町教育研究所幼稚園教育研究部の幼稚園と小学校が連携した架け橋プログラムの構想・作成を進めることと並行して、1年生生活科「がっこう だいすき」の単元において、その視点を生かした授業実践を計画した。また、研究を通して幼児期の教育内容への理解を深めるとともに、実践による成果を本校職員に還元することを意識した。

IV 実践の経過と結果

4月の構想段階から5月の生活科実践を経て、6月以降の研修や幼稚園との交流を通して、架け橋期の捉え方や支援の在り方を見直していった。その結果、授業実践と架け橋プログラムが相互に影響し合い、幼小連携の具体化が進んだ。

（1）4月：架け橋プログラム構想段階

4月当初、初めて1年生を担当することとなり、児童の発達段階や幼児期からの学びについて十分に理解できていないという不安を感じていた。また、町研研究部において1年生担任が幼稚園班会に所属することとなり、幼小連携を進める体制が整ったことを受け、架け橋プログラムの作成に関わることとなった。

この時期は、幼稚園と小学校の教育内容や生活の違いを把握することを中心に、架け橋期において大切にしたい視点を整理する段階であった。

（2）5月：生活科における授業実践

5月には、1年生生活科「がっこう だいすき」の単元において、学校にいる人へのインタビュー活動を中心とした授業実践を行った。幼稚園での経験を生かし、安心して活動に取り組めるよう、質問の観点を示したり、個人で考える時間と話し合いの時間を段階的に設定したりするなどの工夫を行った。

その結果、児童は友達と相談しながら質問を考え、自分の思いを言葉で伝えようとする姿を見せ、学校にいる人々への親しみや関心を高める様子が見られた。

以下に、実際の児童の活動の様子とともに、架け橋期の学びの連続性を意識して行った生活科授業（第3時）の指導案を示す。

生活科学習指導案

大単元名「がっこう だいすき」

小単元名「がっこうにいるひととなかよくなるう」〔学指要領：（１）学校と生活〕

令和7年5月29日（木） 第3校時 1年松組教室

中之条町立中之条小学校 1年松組 25名 指導者 小林 祥太

Ⅰ 単元の構想

1 小単元の目標及び児童の実態

目 標	児童の実態
自分との関わりを思い描きながら学校にいる人に話したり質問したりする中で、学校にいる人々の働きや役割に気付くとともに、相手に配慮した話し方や聞き方を意識して関わろうとすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検に行った際には、色々な教室をみる中で小学校への興味を高めていた。 ・担任以外にも、学年の先生や教科担当の先生、養護教諭など様々な先生と関わるが増えるとともに、授業の前後のあいさつや保健室への出入りに「失礼します」といえるようになってきた。

2 評価規準

知識・技能	①学校の施設の位置や特徴、役割、学校を支えている人々の存在や働きなどが分かっている。 ②学校の人々や施設がみんなのためや安全な学校生活のためにあることが分かっている。
思考・判断・表現	①学校の施設の位置や特徴を意識して、行ってみたい場所ややってみたいことを選んでいく。 ②学校の施設や人々との関わりを思い描きながら、利用の仕方やマナーについて考えたことを交流している。
主体的に学習に取り組む態度	①学校の施設をもっと知りたい、先生や友達などと親しくなりたいという思いをもって、それらに関わろうとしている。 ②学校の施設の利用の仕方やマナーを守って、楽しく遊んだり生活したりしようとしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画（全9時間：本時第3時）

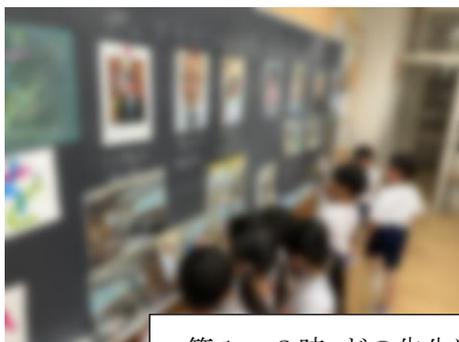
※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・前単元で学校を探検した際に、見つけた物やこと、出会った人について伝え合い、不思議に思ったことやもっと知りたいことを話し合う。(a) 単元の課題 中之条小学校の秘密を調べよう。			①
2	・教科書を見て、どんな人に聞きたいか、誰に話を聞くか話し合う。	①	①	
3	・どんなことを聞きたいか、みんなで話し合う。		②	
4	・グループごとに、練習を行う。(国語)		②	
5	・聞く時に気をつけることを確認し、聞きに出かける。			①
6・7	・分かったことや気付いたことをグループでまとめる。(a)	①		
8	・グループでまとめたことを発表する。(a)	②		
9	・友だちの話を聞いて分かったことや気付いたことを振り返り、伝え合う。(a)			②

*活用するコンテンツ等：(a) カメラ・ビデオ機能

4 学習対象の価値

入学して間もない1年生にとって学校は、授業や行事、給食など、楽しいことが体験できるわくわくする場所である。しかし、学校という慣れない環境に戸惑い、自分らしさを発揮できない児童も多い。そこで、学校探検をして、施設や設備の様子を捉えたり、学校生活を支えている人々と出会い交流したりすることは、学校や支えている人々に親しみをもち、安心して楽しく学校生活を送ることにつながる。また、調べたい場所への移動が容易である利点から、対象と繰り返し関わることができ、児童の気付きの質の高まりが期待できる。



第1・2時 どの先生に聞きたいか選んでいる様子

II 本時の学習（3／9）

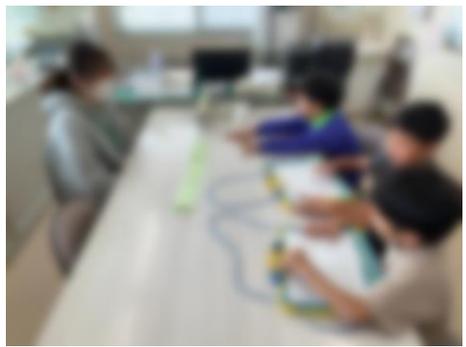
- 1 ねらい 先生にどんなことを聞きたいかを考え、友達と話し合いながら、自分と先生との関わりに気付き、そのことを言葉で伝えようとする。
- 2 展開

主な学習活動 予想される児童の意識〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (5分)</p> <p>S：早く〇〇先生に聞きたいな。</p> <p>S：□□先生は、何をしている人なのだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて> 先生たちにインタビューをするために、聞きたいことを考えよう。</p> </div>	<p>○本時の活動に見通しがもてるよう、先生の写真を提示しながら活動の流れや目的を説明する。</p> <p>○質問を考える際に「先生たちの仕事」に関わる内容に焦点を当てられるよう、「たのしいこと」や「たいへんなこと」など、質問の観点を提示する。</p>
<p>2 先生たちに聞きたいことを個人で考える。 (5分)</p> <p>S：聞きたいことが、たくさんあるな。</p> <p>S：聞きたいことが、わからない。どうしよう。</p>	<p>○次のグループでの話し合いがスムーズに進むように、短時間でも個人で考える時間を設ける。</p> <p>○考えることが苦手な児童も取り組みやすくなるように、仕事をしている部屋や道具など先生に関する写真を用意し、イメージを膨らませやすくする。</p>

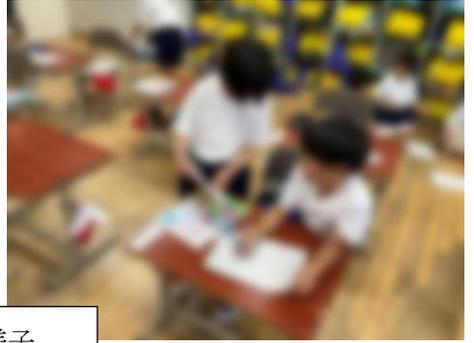
<p>3 先生たちに聞きたいことをグループで話し合う。(30分)</p> <p>S：聞きたいことが同じだから、これをきいてみよう。</p> <p>S：話し合ってみたら、新しく聞きたいことが見つかった。</p> <p>S：たくさんありすぎるから、減らさないといけないな。</p> <p>どれにしようか。</p> <p>S：ほかの先生にも聞きたいことがあるから、他のグループの人におねがいしよう。</p>	<p>○安心して活発な話し合いができるように、机間指導を行い、適宜、子どもたちの取り組みを称賛する声かけを行う。</p> <p>○質問内容を精選できるように、質問数を4～5個に絞るよう指示する。</p> <p>○「学校の先生にインタビューをして、さまざまなことを知る」という活動のねらいを共有しクラス全体で考えているという意識を持てるように、他グループとの意見交流やアドバイスを伝え合う時間を必要に応じて設ける。</p> <p>◆評価項目(思②)</p> <p>児童の活動の様子やワークシートの記述内容から、「学校の施設や人々との関わりを思い描きながら考え、交流しているか」を評価する。</p>
<p>4 本時の学習の振り返りをする。(5分)</p> <p>S：友達と相談して、〇〇先生に聞きたいことが考えられてよかったな。</p> <p>S：いきなり聞きに行くのは難しいから、練習をしてから聞きに行くほうがいいのかも。</p>	<p>○活動の達成感を感じられるように、相談しながら聞きたいことを考えられたことを称賛する。</p> <p>○次時への見通しを持てるように、先生たちに質問をするために必要なことがないか問いかけ、準備や練習の必要性に気付かせる。</p>
<p><振り返り></p> <p>S：友達と話をして、先生に聞きたいことが決まりました。自分が聞きたいと思ったことが、言えてよかったです。次は練習をして、上手にインタビューをできるようにしたいです。</p>	



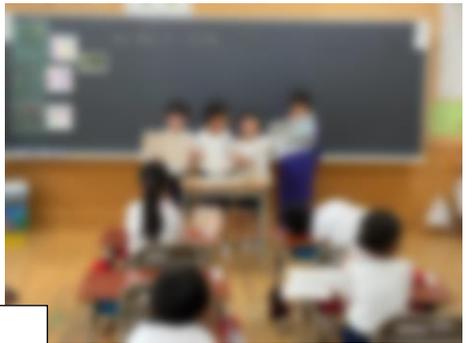
本時 話し合いの様子



第5時 インタビューの様子



第6・7時 インタビューのまとめをする様子



第8・9時 発表や振り返りの様子

生活科の実践の成果と課題（5月の生活科実践時点）

成果

- ・1年生に入学して間もない時期であっても、活動の目的が明確で、必要感をもって取り組めるものであれば、グループで話し合いながら学習を進めることができることが分かった。
- ・実際に先生たちにインタビューを行い、その内容をグループで整理し、発表する活動につなげることができた。幼稚園での経験を生かしながら、小学校での学びへと円滑に移行する姿が見られた。

課題

- ・児童とのやりとりをより丁寧に行い、「わからない」という思いを出発点とした学びを生かせるよう、発問や場の設定を工夫していく必要がある。
- ・めあての設定やグループ分けなど、教師主導で進めた部分が多かった。今後は時間がかかることも想定しつつ、児童を信頼し、主体的に活動を進められるよう任せる場面を増やしていくことが課題である。

（3）6月：幼稚園参観・研修を通じた理解の深化

5月の生活科実践を行う以前から、幼稚園参観や研修に参加することは決まっていたが、実践を経たことで、それらを自らの授業を振り返る視点として捉えることができるようになった。

6月には、保育研究会（沢田幼稚園）への参加や、群馬大学附属小学校の公開研究会への参加を通して、幼児期の教育内容や1年生の学びについて理解を深めた。幼稚園での子どもの姿を実際に参観することで、遊びを通じた学びや人との関わりの積み重ねが、小学校での生活や学習につながっていることを実感した。

これらの理解は、5月の生活科の授業実践を振り返る視点となり、架け橋期の支援の在り方を見直すきっかけとなった。

(4) 8～9月：架け橋プログラムの検討と共有

8月の町研幼稚園班会や、9月の計画訪問（中之条幼稚園）では、これまでの実践や研修で得た気付きをもとに、架け橋プログラムの内容について検討を進めた。幼稚園と小学校の教職員が意見を交わす中で、互いの教育内容や子どもの実態について理解を深めることができた。

この時期には、架け橋プログラムが単なる計画ではなく、日々の授業や支援に生かす視点として整理されていった。

(5) 10～12月：研修参加を通じた取組の整理

10月以降は、幼小連携に関する研修やオンライン講座に継続して参加し、架け橋期における学びの連続性について理解を深めた。研修内容を、これまでの生活科実践や幼稚園との交流と結び付けて捉えることで、自身の実践を振り返る視点が明確になった。

また、研修や交流を通して得た気付きをもとに、架け橋プログラムの内容についても見直し・修正を行い、より実態に即したものとなるよう整理した。

その結果、幼小連携の必要性や架け橋プログラムの意義を改めて実感し、今後の授業や連携の在り方について見通しをもつことができた。

(6) 実践を通して見られた変化

一連の取組を通して、幼稚園と小学校の教職員間での情報交換が行いやすくなり、幼児期から1年生への学びのつながりを意識した関わりが増えた。また、自身の授業実践においても、児童の不安に配慮しながら活動を構成する視点が定着しつつあると感じられた。

V まとめ（成果と課題）

(1) 成果

- ・本研究を通して、幼小の架け橋期においては、幼児期の経験を踏まえた活動の設定と、児童が安心して人や環境と関われる場づくりが、学びと生活の連続性を支える上で重要であることが明らかになった。
- ・参観や研修への参加、幼稚園との交流を通して、幼稚園の教育内容や子どもの実態について理解を深めることができた。
- ・幼小の交流が増えたことで、教職員間の情報交換が行いやすくなり、幼稚園の実態を踏まえた児童理解や支援につながった。
- ・架け橋プログラムの初年度として、幼稚園と小学校の交流が進み、園児だけでなく、幼稚園教職員が小学校の教育活動を知る機会も増えた。
- ・幼小双方の理解が深まったことで、来年度以降の幼小連携を進めるための基盤を整えることができた。

(2) 課題

- ・幼稚園と小学校では教育内容や生活面に違いがあるため、両者をスムーズにつなぐ体制づくりが引き続き必要である。
- ・幼稚園教育および1年生の実態について、関係する職員全体で理解を共有していく仕組みを整える必要がある。
- ・今年度は幼稚園との連携が中心であったため、今後は保育所との連携も進めていくことが課題である。
- ・それぞれの実態に応じた架け橋プログラムの作成や、町として統一したプログラムの在り方について、今後検討していく必要がある。

中之条町基本理念													
郷土に愛着と誇りをもつ人づくりを目指します													
明るく→心豊かでハツラツとした人づくり かしく→自然と文化を活かし、学ぶ意欲があふれる人づくり たくましく→生涯を通して、心身共に健やかな人づくり													
ふるさと中之条町を愛し、明るくかしくたくましく、未来を切り拓く人													
◎自信をもって、主体的に物事に取り組める子 ◎心豊かでやさしい子 ◎前向きに学び考える子 ◎粘り強くたくましい子													
学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
発達の様相	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ねらい	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
具体的なもの （非認知能力）	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	生活面 ＜5歳児方向目標・小1到達目標としての姿＞	
環境の構成	<p>【環境の構成】</p> <p>1. 自然環境：中之条町の自然環境を愛し、自然と文化を活かす。</p> <p>2. 文化環境：中之条町の文化を愛し、学ぶ意欲があふれる。</p> <p>3. 社会環境：中之条町の社会を愛し、たくましく生きる。</p> <p>4. 教育環境：中之条町の教育を愛し、心豊かに学ぶ。</p>												
援助、指導上の配慮事項 (方法としての教師)	<p>【援助、指導上の配慮事項】</p> <p>1. 個別対応：子どもの個性や発達段階に応じた指導を行う。</p> <p>2. 協働学習：子ども同士が協力し合いながら学ぶ機会を創出する。</p> <p>3. 地域連携：中之条町の地域資源を活用した学習を行う。</p> <p>4. 生涯学習：子どもが生涯を通じて学ぶ意欲を育む。</p>												
主な行事や学習内容 ・子どもとの交流 ・家庭や地域との連携 ・職員のつながり 等	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学習発表会 運動会 文化祭 交通安全教室 防災訓練 卒業式

作成した架け橋プログラム